

やりがいを持ち、
経済を発展させていく

長野県上田染谷丘高校1年5組 中川 漣音

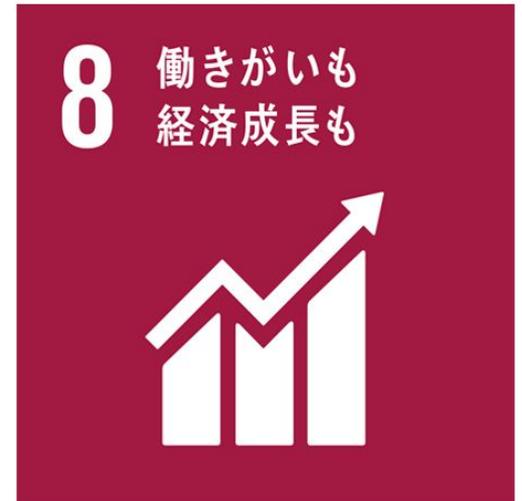
No. 8 働きがいも経済成長も

Q なぜこれについてやろうと思ったのか。

A 中学の時にこれについて調べたが、その時に主に発展途上国で起 っているある問題を
知り、もっとそのことについてこの情報の課題を通して深掘りしたくなったから。

～NO.8 とは～

すべての人のための継続的、
包摂的かつ持続可能な経済成長、
生産的な完全雇用およびディンセント・ワーク
(働きがいのある人間らしい仕事)を推進することを
定めた目標



世界と日本の現状&課題

世界

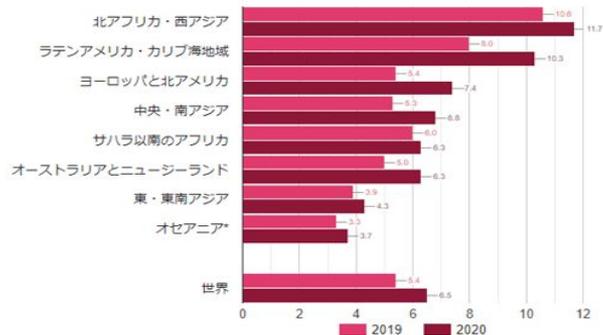
失業率の深刻化: 働きたくても働けない人がいる

⇒ 新型コロナウイルスの影響もあり、**世界全体の失業率は2020年に6.5%**を記録、2020年の国別失業率ランキングを見ると、**アフリカや南米の国々が多く** ランクインしており、**31か国が10%を超えている。**

児童労働の問題視: 労働を強いられ、教育を受ける機会がない

⇒ **2016年時点で5~17歳による児童労働者数は1億5,200万人**、特に割合が高いのは**アフリカのこども達**で、**地域全体の約20%が児童労働に従事している。**

失業率、2019年と2020年(パーセント)



日本

長時間労働の問題視:生産性も低下し、私生活に支障をきたす原因となる

➡ 2016年の世界の労働時間ランキングでは、日本の労働時間は1713時間で22位という結果。一般労働者の男性1日当たりで考えると、日本男性の労働時間は平均 375分、**世界全体平均の259分と比較すると、2時間近くも長い労働時間となる**

雇用形態による賃金格差が大きい:非正規職員と正規職員の収入格差が大きいこと

➡ 非正規職員は、就業上経験の蓄積も考慮されない場合が多くある。つまり、正規職員には可能な「社内でのさまざまな実績・経験による積み上げ」が生じにくい**ため、金銭的な面でのアップが難しい現状にある。**



問題解決のためのターゲット

失業率の深刻化: 働きがいのある人間らしい仕事を増やしたり、会社を始めたり、新しいことを <8-3> 始めたりすることを助ける政策をすすめる。特に、中小規模の会社の設立や 成長を応援する。

児童労働の問題: 子どもを兵士にすることをふくめた最悪の形の児童労働を確実に禁止し、 <8-5> なくす。また、2025年までに、あらゆる形の児童労働をなくす。

長時間労働の問題: 商品やサービスの価値をより高める産業や、労働集約型の産業を中心に、 <8-2> 多様化、技術の向上、イノベーションを通じて、経済の生産性をあげる。

雇用形態による賃金格差: 2030年までに、若い人たちや障害がある人たち、男性も女性も、働き <8-5> がいのある人間らしい仕事をできるようにする。そして、同じ仕事に 対しては、同じだけの給料が支払われるようにする。

私達が考えなければいけないこと

私達はもっとSDGsについて考えていかなければいけません。

現在島根大学では、「自然と共生する豊かな社会の発展に努める」というテーマのもと、教育・研究・医療等の活動に続く様々な活動を通して持続可能な社会に貢献しています。

またあのヤクルト本社では、「持続可能な「生産」に取り組む、生産工場等の適正な雇用を確保する」といった観点からもSDGsに貢献しています。このように現在日本でもSDGsに貢献しようとそれぞれのやり方で頑張っています。

私達にもできることがあります。例えば「地産地消」です。地産地消は直接購入者の意見を聞けるなど様々なメリットがあり、地産地消の過程で生産者が働きがいを感じられる機会は多いと考えられます。

当たり前な世の中に「疑問を持つ」「考えを豊かに」「言葉を行動に」を心がけるべきです。

疑う(doubt) ➤ 調べる(search) ➤ 行動する(act) のDSAサイクルを身につけておく必要があります

感想

わたしはこのレポートを作る上で工夫したことが2つあります。

1つ目は見やすさです。主に見出しや項目、重要な部分に色をつけたりしました。これによって見る側もどこを見ればいいかが分かりやすくなったと思います。

2つ目はDSAサイクルです。自分が言いたいことをより分かりやすく伝えるために必須なのはひと目見たときのインパクトだと思っているのでPDCAサイクルのようなものがないと思い、DSAサイクルを考えました。

この課題を通して思ったことは自分の無知さです。わたしは中学校からSDGsについてやってきたつもりでした。でもそれはあくまでも”つもり”なだけでした。ですが今回で目標8のことはわかったと思います。自分が言ったことを実行するのがこのレポートの完成形だと思うのでただ言うだけではなくこれからはこの当たり前な日々を疑っていきたいです。